

随時受け付けしています。

第3回 フォトコンテスト 造園作品の写真をご応募ください

優秀作品は 優秀賞1名 賞金とトロフィーの授与
入賞 2名 賞金の授与
翌年カレンダーへ使用させていただきます。

応募方法

- ① メールで提出 E-mail: shinagawa@e-392.com
- ② 写真で提出 裏面に事業所名・氏名を記入し郵送ください
〒371-0014
前橋市朝日町 3-12-20 (一社)群馬県造園緑化協会 宛

- 造園作品を撮影した写真(作庭作品や手入れ作品など)
- 過去に撮影した写真もOKです(製作時期は問いません)
- 1人につき多数の応募も受け付けいたします



編集後記



2021年、新しい年が始まりました!
我が家は昨年末に庭の剪定をお願いし、すっきりときれいに整えられた庭を眺めると、例年以上に清々しい気分で新年を迎えることができました。
去年は外出する機会が減り、今の楽しみは「美味しいものを食べること・寝ること」と話しているのは、私を含め、私の周りにいる人たちだけでしょうか…?家時間が増え、日常生活をあらためて見直す機会となった方

も、たくさんいらっしゃるのではないのでしょうか。
去年は、世界中で新型コロナウイルスが猛威を振り、人類が今までに経験したことのない恐怖と悲しみの多い一年となりました。急増する患者の対応に追われる医療従事者や関係者の方々のご苦労と、感染拡大によって多方面に及ぼす影響など、私たちは今まで以上に「感染しないこと、させないためにはどうしたら良いか」を真剣に考えていかなければなりませんね。

桜山公園

藤岡市鬼石170-1



第1の広場に造られた日本庭園には1,500トンもの三波石が用いられている。清流が流れ込む、本格の池泉回遊式庭園で、秋には紅葉に彩られる。

7,000本の冬桜が山肌を彩る

47ヘクタールという広大な面積を持つ桜山公園は、15ヘクタールの群馬県立森林公園と、32ヘクタールの藤岡市の公園からなりたっている。
上毛かるたで「三波石と共に名高い冬桜」と詠まれる、全国的にも珍しいこの桜は、春に咲いた後、11月から12月にかけて再び咲く二度咲きだ。桜山公園は、その冬桜を約7,000本擁する。この壮大なスケールは、日露戦争の戦勝を記念し、村民の協力を得て1,000本植樹したのが始まりという。

昭和12年4月17日に国の名勝および天然記念物に指定された。また、平成2年には公益財団法人日本さくらの会によって「さくら名所100選の地」に選定された。

会報が配布されるころには冬桜は終わっているが、4月中旬にはソメイヨシノとともに再び見ごろを迎える。桜が花期を終えるころにはツバキやツツジも開花し、公園は本格の春に染まる。ツツジの品種はオオムラサキ、クルマ、キレンゲなどで、総数は約5,000本にものぼるといふ。

第2の広場には三波石を採り入れた「見本庭園」が設けられている。茶室も造られていて、茶会には無料開放している(申し込みは藤岡市鬼石総合支所にぎわい観光課0274-52-3111)。



斜面のいたるところに桜の木が植えられているが、ツバキやツツジ、モミジ、ロウバイなども随所に見られる。



園内には5つのハイキングコースが設けられている。片道9キロから5キロまでで、けっこういい運動になりそうだ。



冬桜の花色は淡いピンク。12月1日の桜山まつりではライトアップされる。日本庭園では水面に映る光景が際立って美しい。



一般社団法人 群馬県造園緑化協会
会長 須永 宜夫



衆議院議員
小淵 優子

新年明けましておめでとうございます。
会員各位様には、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。また平素より協会の活動に御協力を賜り厚く感謝申し上げます。

昨年は、中国・武漢が発生源と思われる新型コロナウイルスにより日本はもとより、全世界中で猛威を振り大変深刻な状況になっており、普段の日常生活が大きく変化をしてしまいました。協会の行事及び活動にも大きく影響ができました。

医療現場では、患者の受け入れに大混乱をし、飲食業、観光業、宿泊業など、ありとあらゆる業種に大きな影響が出ています。

人の移動も制限をされ、夜の外出も自粛をし、マスク無しでの生活が考えられなくなりました。

夏には、東京オリンピック・パラリンピックも予定されておりコロナ禍での開催となることでしょう。

世界中の製薬会社がワクチンの開発に取り組んでおります。いかに経済を効率的にまわすかが大変難しくなっております。あらためて仕事ができる事への感謝、何気ない普段の日常生活がどんなに有り難いかを再認識する機会かと思われまます。

結びに会員各位様のご健勝とご多幸を御祈念申し上げ新年のご挨拶とさせていただきます。

新年明けましておめでとうございます。
昨年は新型コロナウイルスの広がり、世界中が大変な苦難を強いられました。その危機からの脱却と、新たな社会生活の確立に向け、皆様方におかれましても決意を新たにされていることと存じます。

緑豊かな群馬県は、ニューノーマル時代に求められる「住まいの環境」を完備している土地柄にほかなりません。

広い森林や平野の広がり。関東の水源地としての優位性。緑と歴史文化にあふれる中核的な都市部の発展。新幹線・高速道など高速交通網の完成。自然災害への対策の充実。さらにオンライン網の拡充で就労問題もクリアでき、大都市部からの「移住先」として群馬県は大きな注目を集めています。

とりわけ「緑あふれる住環境づくり」に大きな力を発揮してきたのが、創立半世紀を超える貴協会による長年にわたる緑化への啓蒙と推進です。伝統文化である造園緑化技術の継承と向上・行政と連携した緑化や防災対策への積極的な取り組みなど、「豊かな住環境づくりの担い手」としての社会的な評価はきわめて高いものがあります。

これまで大都市一極集中の是正と地方活性化の大切さが常に叫ばれてきましたが、今回のコロナ禍は、この課題克服に向けた好機とも考えられます。

皆様、今後とも、あふれる職人魂と熟練の技術をもって、ふるさと群馬の新たな飛躍へ力強いリーダーシップを発揮していただくことを祈念申し上げ、新年のご挨拶いたします。

群馬県に及んだ脅威「クビアカツヤカミキリ」

令和2年6月25日知事定例会見にて、山本一太群馬県知事より群馬県におけるクビアカツヤカミキリに対する被害状況及び新たな予防対策について以下のような報告がありました。「クビアカツヤカミキリですが、6月下旬から7月末まで、成虫の発生がピークを迎えます。県では、この期間を、「クビアカ注意月間」というように呼び、皆さまと一丸となって、被害の拡大防止に取り組みたいと考えております。県民の皆さまも、クビアカツヤカミキリを見つけた場合は、「棒で叩く、踏みつぶす、その場で駆除」していただきたいと思ひます。その上で、最寄りの市町村役場にお知らせいただきたいと思ひます。また、クビアカツヤカミキリが見当たらずとも、桜などの木から、幼虫のフンと木くずの混じった「フラス」と呼ばれる、こういうものが出ていることを見つけた場合も、急いで最寄りの市町村役場にお知らせいただきたいと思ひます。被害の拡大を防ぐために、皆さまのご協力を改めてお願い申し上げます（知事会見より一部抜粋）。

この知事会見に先立ち、群馬県の造園4団体で運営している群馬県造園団体協議会（以下造園協）あてに東毛地区のクビアカツヤカミキリ予防対策事業に係る見積依頼がありました。この依頼を受け造園協で役員による協議が行われ東毛地区を分割し各団体で担当することに決し、当協会では須永会長が先にお示しした通り桐生支部、太田支部で担当することになりました。期日が切迫していたことから短期間での施工が申し合わされ、担当された会員の方には大変なご負担をお掛けしました。

この事業を実施するに当たり、現地調査・実習を行い、施工状況・書類管理・写真管理も統一を図りました。施工



ウッドスター®注入（メーカー HP より）



ウッドスター®（メーカー HP より）
専用注入器（メーカー HP より）

に関しては、県担当課より予防効果を実証されている薬剤ウッドスター®サンケイ化学(株)による樹幹注入で行うことになりました。ウッドスター®は2015年に登録されアメリカシロヒトリ、チャドクガ等に効果があるとされていましたが、高額で専用の注入器による樹幹注入という手間の掛かる施工から敬遠されていました。

この脅威は県内を北上することは当然に予見され、拡大予防対策は今後も継続される事になると思ひます。

（文責／樹木医 福田勝巳）



施工状況



施工中に見えられた「フラス」



第33回 安全衛生大会

コロナ禍に臆さず、安全、めざして開催



今回の安全衛生大会は、世界中に前代未聞の災厄をもたらし、いまも猛威をふるっている新型コロナウイルス禍をしのいで開催となりました。会場の入口には消毒液や体温測定器が置かれ、マスクの着用、ソーシャルディスタンスの徹底など、従来とは趣の異なる雰囲気でしたが、軽快なテンポの司会や、快活な会員の皆さんによって順調に開催されました。

開会までの数十分間、掲示板に展示されたフォトコンテストの応募作品の投票が行われました。応募総数は20点でした。

プロと比較しても遜色のない名司会、福田勝巳さんによって定刻通りスムーズに開会されました。

最初に須永会長から挨拶が述べられましたが、やはりこのコロナ禍における危機的状況に触れ、「影響が出ていると思いますが、改めて、仕事ができることに感謝する機会になれば」「年末に向かって多忙になりますが、体調に注意し、日々の業務に励んでいただきたい」といった趣旨のことを話されました。

安全事業所の表彰は前橋支部の根岸園芸・根岸憲一さん。根岸さんは「受賞を光栄に思います。これからも安全に十分気をつけながら作業をし、一生、死ぬまで職人でいたいと思います。本日はありがとうございました」と感想を述べました。安全は最優先事項ということなのでしょう。

新会員の紹介は、残念ながら本人が欠席のため、司会者による口頭での発表のみでした。桐生支部の広沢

造園の石川正芳さんです。

メインテーマである安全講話の講師は、2年連続で講師となった群馬県労働局健康安全課の恩田隆吉係長。安全事業所として表彰された根岸園芸さんにお祝いと労いの言葉の後、災害の安全状況、変更や新設があったガイドラインの説明、コロナウイルス関連などについて講義されました。

主な内容としては、1月から9月までの労働災害が1583件発生していて昨年同期より8件増加したこと、チェーンソーのガイドライン変更と新規追加によって安全面での

第33回安全衛生大会プログラム

- ☆集合
- ☆第2回フォトコンテスト投票受付
- ☆開会／開会のことば
司会 福田勝巳
- ☆会長のあいさつ
須永宜夫会長
- ☆表彰式
根岸憲一(根岸園芸)(前橋支部)
- ☆新入会員紹介
石川正芳(株式会社広沢造園)(桐生支部)
- ☆安全講話
群馬県労働局労働基準部健康安全課 係長 恩田隆吉
- ☆謝辞
原田道明副会長
- ☆閉会の言葉
司会 福田勝巳
- ☆フォトコンテスト入賞者発表および表彰式
- ☆終了



今回は新型コロナウイルスのせいで、消毒液や体温測定器まで用意しなければならなかった。



今回も多彩な作品が寄せられた。優れた作品ばかりなので、投票する際には選ぶのに悩まされる。



今回も司会は福田さん。軽快なテンポとユーモアを含んだ話術で会議を進ませる。



開会のことばを述べる須永会長。やはりコロナ禍にも触れている。



安全事業所の表彰。根岸園芸の根岸憲一さんに、須永会長が表彰状の文言を読み上げる。*労使協力して職場の安全衛生確保に積極的な努力を払い、その実績は他の事業所の模範である、というのが表彰のゆえんだ。



講話のなかでも新型コロナウイルスへの対策に触れている。労災だけでも大変なのに、感染症という新たな問題が生じた。



恩田係長に講話の謝辞を述べる原田副会長。

フォトコンテストは第2回となった。今回の優秀賞は深澤さん。入賞は駒形造園さんと深澤造園さん。



条件が厳格化されたこと、業種によって差はあるものの、県内の労災事故は4人に1人が60歳以上であることなどでした。

ちなみに、ケガの原因としては転倒が圧倒的に多いとのことでしたが、自分の身体機能がどの程度かを測る方法も紹介されました。いくつかの簡単な運動をしてチェックし、身体機能の程度を判定するものです。事故防止に役立てましょう。

コロナに関しては、基本的にはマスク着用や消毒など、これまで通りの予防法を継続していただきたい。厚生労働省としては、職場での集団感染を防ぐために、厚

労省が作成したチェックリストを活用していただきたいとのことでした。

なお、企業が年1回実施する健康診断もコロナの影響で遅延する事例が多発していますが、事情が事情だけに、企業内で無理のないよう取り組んでいただければという趣旨のお話をされていました。

講義終了後、原田副会長から恩田係長へ「本日はお忙しいなかありがとうございました。明日からも安全に励んでいきたいと思います」と謝辞が述べられました。

フォトコンテストについては別にページを設けていますので、そちらをご覧ください。

第2回 造園作品フォトコンテスト開催

今回も力作が寄せられました。集計結果発表に先立ち、事務局から「昨年度よりもいっそう素晴らしさが増しました」との声が聞かれましたが、まさに、総数20点の作品はどれも逸品といえるものばかりでした。



優秀賞



入賞

受賞した深澤造園さんの第一声は、「えー、ほんっとに嬉しいです」。昨年は優秀賞を逃しただけに喜びひとしおといったところだったでしょう。白砂の作品(上の写真)は26歳のときに造った庭から40年後、再び手がけたもの。



まず、昨年優秀賞を受賞した駒形造園さんよりカップの返還が行われました。続いて事務局から受賞者が発表されました。優秀賞は、昨年2位だった深澤造園さん。入賞は、昨年優秀賞だった駒形造園さんと、今回の優秀賞も受賞してダブル受賞となった深澤造園さんでした。

司会の福田さんから、来年も同様の趣旨で企画する予定なので、ぜひお願いしますとの言葉がありました。



入賞

駒形造園さんの作品。今回は惜しくも2位となったものの、得点は優秀賞とたったの1点差。



応募作品



エッセー 木々是好日 32

日本の固有種 一属一種の高野槇

新木としろう (グラフィックデザイナー)

今回取材したのは、沼田市の正覚寺の境内にそびえ立つ、市指定天然記念物(昭和51年3月3日指定)です。木のそばに立てられた(平成18年3月)案内板から数字を拾ってみると、樹高21メートル、根元周囲7.33メートル、目通り周囲3.59メートル、枝張り東西10.7メートル、枝張り南北10.3メートルとあります。堂々たる風格です。木を知るのに重要な要素の一つである樹齢は、残念ながら不明とのこと。

案内板には「指定物件は植栽木であるが、この地方では稀な巨木である。若干枝折れの跡が見られるが、大きな損傷もなく、樹勢良好である」と記されていました。

高野槇は一属一種の常緑針葉樹です。ホンマキとも呼ばれますが、これはイヌマキとの対比のための呼称です。遠い昔には欧米でも見られたといいますが減びてしまい、現在では日本の固有種とされています。高野槇の「高野」は真言宗の総本山である高野山に由来しています。高野山には特に多く野生し、霊木とされているそうです(ちなみに、正覚寺は浄土宗)。寺院によく植栽されるのは仏花として用いられるからのようです。

高野槇は木の形がほぼ円錐形で美しいことから造園木としても人気があり、寺院だけでなく庭園にも植栽されています。外国でもコニファーの一種として利用されているそうです。コニファーというのは、細かい葉が密集して茂る「針葉植物」の総称で、常緑のため観賞用として人気が高く、外からの目隠しや境界線となる生け垣にも使えます。



も使えます。

水に強いという特性を活かし、浴槽や流し板、水桶、橋梁材(千住大橋が有名らしい)などに重宝されます。また、古代には最上級の棺材として利用されたようです。

ところで、実は今回、正覚寺の高野槇のほかにもう一件取材をしました。しかし、残念ながら場所が悪く、姿全体を表せるような写真を撮ることができませんでした。その高野槇のほうがデータの魅力的な魅力があるので、数値などを記しておきます。

それは、吾妻郡高山村の龍泉寺(曹洞宗)の高野槇です。昭和29年3月20日に県指定天然記念物となった巨木であり、老木です。樹齢約800年、樹高29.5メートル、目通り6.3メートル、根元廻り13.8メートルです。

案内板には、「日本一といわれている愛知県の国指定文化財甘泉寺の高野槇に勝るとも劣らない巨木である」との一文が添えられていました。



樹皮は、若い枝では赤褐色だが、生長とともに灰褐色に変化する。枝は、長い枝の先端に多数の短い枝が輪生し、その先に針葉がついている。



葉には針葉のほかに鱗片葉がある。針葉は柔らかくてしなやか。花は雌雄異花で、早春に開花する。